

平成30年度 第3回千歳市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時 平成31年2月12日(火) 14時00分～16時00分

会場 議会棟2階 大会議室

出席者 横田会長、小林委員、遠藤委員、中村委員、高本委員、吉田委員、三戸部委員、五十嵐委員、榊原委員、廣島委員、大和田委員、二ツ屋委員、中山委員、杉浦委員、玉木委員、高田委員、中野委員、大野委員、原口委員
伊賀委員、大野委員

欠席委員：藤本委員、石川委員、清水委員、山本委員、杉山委員

事務局：(企画部交通政策担当) 米澤主幹、横山主査、北條技師

傍聴者 2名

【次第】

1 開会

2 報告事項

- (1) 路線バスの利用状況について
- (2) 幼児運賃無料化の実証結果について

3 協議事項

- (1) ダイヤ等の変更について
- (2) 平成31年度事業計画(案)及び予算(案)
- (3) 千歳駅前広場再整備基本計画の策定について

4 話題提供

千歳科学技術大学と連携したバス利用促進の取組について

千歳科学技術大学 理工学部 准教授 小林 大二 氏

- (1) 外国人向けバス時刻表プロジェクト
- (2) 千歳駅バス乗り場案内板改善プロジェクト

5 閉会

【協議結果】

- ・報告事項(1) ~ (2)について、報告済みとなった。
- ・協議事項(1) ~ (3)について、承認された。

【会議要旨】

2. 報告事項

(1) 路線バスの利用状況について

- ・事務局より資料1に基づき説明し、報告済みとなった。
- ・質疑、意見等はなし。

(2) 幼児運賃無料化の実証結果について

- ・千歳相互観光バス(株)中村委員より資料2に基づき説明。
- ・質疑、意見等は以下のとおり。

(委員)

- ・近年、空港の駐車場は、空港利用者の増加により非常に混雑している状況であり、土日などは中々駐車ができない状況も見受けられる。
空港では、映画館の利用者を対象とした駐車料金の割引を行っているようであるが、路線バスについても、空港と連携し、空港施設利用者を対象とした運賃の割引などを実施することはできないのか。そうすることにより、空港における自家用車の混雑も緩和できるのではないか。

(委員)

- ・中央バス様や道南バス様、十勝バス様では、動物園やテーマパークと連動したバス運賃を展開し、乗客の減少を抑える取り組みをされている。
空港施設利用者を対象とした路線バス運賃の割引については、相手方からご賛同いただく必要がありますが、今後の貴重なご意見として参考とさせていただきたい。

(1)ダイヤ等の変更について

- ・事務局より資料3に基づき説明し、バス事業者から補足説明。
- ・質疑、意見等はなく、承認された。

・バス事業者からの補足説明

(委員)

空港の路線バス利用者については、国際線の拡張工事や働き方の多様化により、今後も増えていくものと想定していることから、今回のダイヤ変更に合わせて最終便の時間を延ばし、利便性を向上させたいと考えている。

今回、最終便の増便に当たり、弊社で空港の各テナント様へアンケート調査を実施したところ、夜遅い便の運行を希望する会社もあった。弊社としては、今後もそういった声を拾い、路線バス利用の促進に努めていきたいと考えている。PR等についても引き続き市と連携し、取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

今回は、路線バス利用促進の観点から、時間の変更をさせていただきたいと考えている。周知については、バスの車内などで行っていく予定である。

(2)平成31年度事業計画(案)及び予算(案)

- ・事務局より資料4に基づき説明し、承認された。

(3)千歳駅前広場再整備基本計画の策定について

- ・事務局より資料5に基づき説明し、承認された。
- ・質疑、意見等は以下のとおり。

(委員)

・財政的な制約があるのは承知しているが、広い意味でのホスピタリティーという観点からご意見をいわせていただく。

- 1)西口広場のバスシェルターについては、既存のものだけではなく、一般車乗降場側まで整備しても良いのではないかと。また、東口広場についても、JRINN様と協力し、ホテルの入口までシェルターを整備しても良いのではないかと。

- 2) 郵便局の駐車場については、出入口が駅前広場の交差点と近接していることや交番があることにより死角が生まれ、利便性や安全性に課題があると思う。再整備に併せて、一体的に改善策を考えていくことはできないのか。
- 3) JR様の旧みどりの窓口の場所については、現在、利用されていないかと思う。そういった場所があることも踏まえて、外国人観光客などに対応した案内機能の配置を考えるべきではないか。

(事務局)

- 1) 西口広場につきましては、既存施設を有効活用するため、既設のシェルターを活用した整備を考えております。東西口広場のシェルターの整備につきましては、利便性や待合環境を向上させる観点からも有効であると認識はしておりますが、整備費が1m当たり約100万円となり、高額となることから難しいものと考えております。
再整備に当たりましては、シェルターが未設置となる一部の路線バス乗降場については、待つ必要がないよう降り専用にすることなどを考えております。今回、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
- 2) 再整備の実施に当たりましては、近接交差点のスクランブル化や安全標識の設置などといった安全性や利便性の確保について、関係機関と協議を進めております。また、JRINN様、郵便局様とは、再整備の実施に当たり、本日いただいたご意見も参考にしながら、協議を進めていく予定であります。
- 3) 案内機能の配置や強化などにつきましては、再整備ビジョン(素案)にも掲げておりますので、今後、関係機関と協議を進めていく中で、引き続き検討を進めていく予定であります。

(委員)

- ・企業からご協力いただくような交渉は、行政としてもしていただきたい。その中で、企業側から費用対効果の観点で費用負担が難しいとお話があるかもしれないのは承知している。
特に郵便局前の空間は、有効活用することにより双方にメリットはあるのではないかと思う。
整備内容については、よく検討をされていると思うので、是非、次に繋がる話をしつつ更に検討を進めていただきたい。

(事務局)

- ・今後の参考とさせていただきます。

(委員)

- 1) 鉄道高架下の用地(JR用地)を活用することはできないのか。現状、薄暗い空間となっているが今回の整備で改善されるのか。
- 2) 再整備については、駅前広場の中の話ということで理解はしているが、現状、郵便局の駐車場については、出入口の近くに交番があることにより、非常に車の出入りがしにくいので今回の整備と併せて改善できないのか。

(事務局)

- 1) 鉄道高架下の用地(JR用地)につきましては、JR様より、「JR緊急用車両等の駐車場として利用しており、全体を活用することは難しい状況である。」と伺っておりますが、現在、東口バス乗り場近傍の一部用地を利用させていただくことについて協議をしております。
- 2) 現在、郵便局前の交番を移設することについての検討は行っておりませんが、郵便局駐車場の出入口の見通しが悪いことについては、駐車場を管理している郵便局様や警察様へもお伝えしていきたいと考えております。

(委員)

- ・鉄道高架下の用地(JR用地)につきましては、現状、弊社の緊急用車両に加え、冬季には除雪パートナーの車両も駐車し、ほぼ全てのスペースを使用している状況であることから全てを開放することは難しい状況ではありますが、東口バス乗り場近傍の一部用地の借用につきましては、弊社の方でできる限り検討させていただき、ご協力できるようにしたいと考えております。

(委員)

- 1) 鉄道高架下のJR駐車場への出入りについて、現状、東口広場側から出入りしていると思うが、今回の整備ではどのように想定しているのか。

(事務局)

- 1) 鉄道高架下のJR駐車場への出入りについては、現状どおり東口広場のタクシーバースの付近からの出入りを想定しております。

(会長)

・当初は、交通機能配置について、公共交通を西口広場に集約するなどを検討してきた経緯もありましたが、実際の利用状況やご利用されている方のご意見を踏まえ、現在の複合的な配置案が望ましいのではないかと考えております。

今後は、議会報告や関係機関との協議を進め、改めて本協議会で協議をさせていただく予定であります。

千歳駅前広場再整備基本計画の策定については、ご承認いただいたものとしてよろしいでしょうか。

・一同了承。

4 話題提供

千歳科学技術大学と連携したバス利用促進の取組について

千歳科学技術大学 理工学部 准教授 小林 大二 氏

(1)外国人向けバス時刻表プロジェクト

(2)千歳駅バス乗り場案内板改善プロジェクト

・質疑、意見等は以下のとおり。

(委員)

・市内の路線バスにおいて、交通系ICは使用できるのか。

外国人観光客からすると、小銭を持ち歩くのは不便かと思う。

(委員)

・中央バスのみ使用可能である。

(委員)

・QRコードを使用したキャッシュレス化はできないのか。

(委員)

・日本ではあまり見かけないが、海外では事例がある。

交通系ICについては、機器費が高く導入のハードルが高いといった課題もあるかと思う。

(委員)

・弊社(道南バス)では今月末まで、北海道運輸局にご協力いただき、登別駅～登別温泉、洞爺駅～洞爺湖温泉(区間限定)でQRコードを活用した、運賃精算の試験運用している。利用方法は、バス停にQRコードを掲示し、そのQRコードを乗客がスマートフォンで読み取った上で決済し、降りる際に決済完了画面を提示してもらうといったものである。

当該方法については、機器導入費が掛からないメリットがあるが、距離ごとの個別運賃を精算しようとした場合は、降車時にバスの乗務員が個別にQRコードを提示する必要があることから、精算に時間を要するといった課題もある。

なお、本試験運用について、ドライバーからは好評である。

(委員)

・これまで北海道で行っている様々な実証試験の結果や取り組みの内容については、市民に向けて発信されているのか。

(事務局)

・市として取り組んでいるものについては、協議会でご報告をさせていただいております。

(委員)

・公表可能なものについては、運輸局のHPで随時公表させていただいております。

(会長)

・千歳科学技術大学につきましては、今後も地域課題の解決に向けてご協力をお願いしたい。

以上